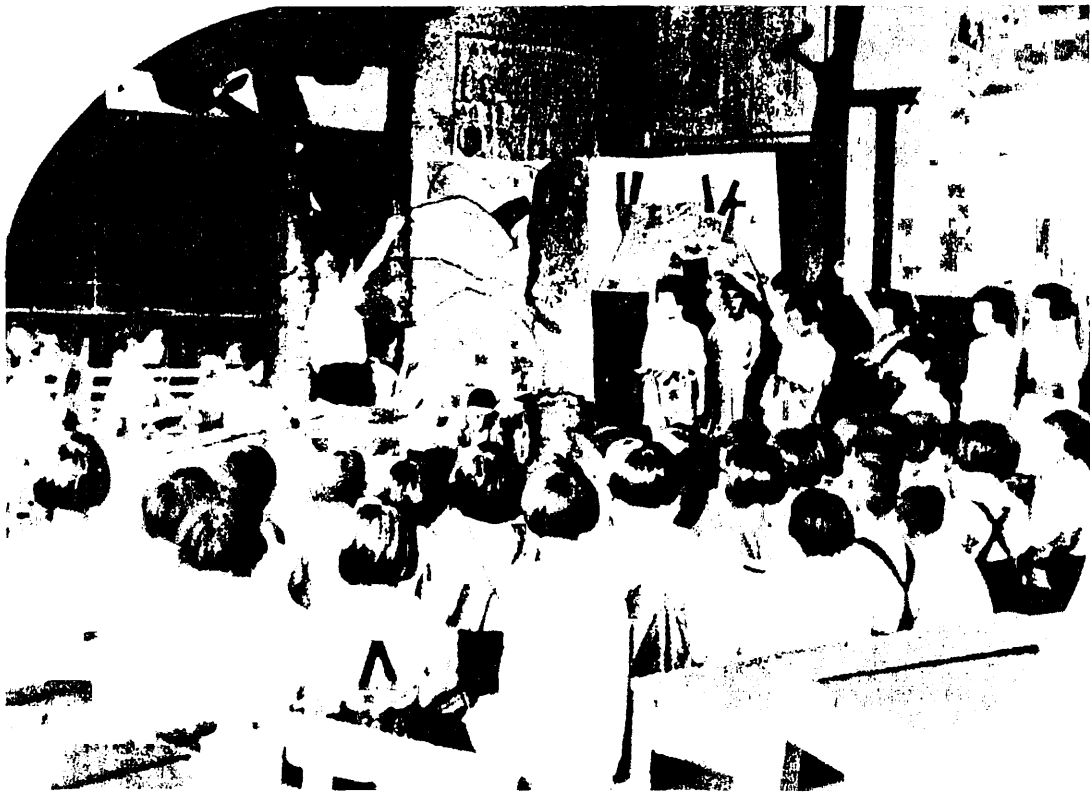


教育センターだより

あの頃……

～社会科誕生のころ～

秋田県教育史資料室から



私たちの町の授業（昭和24年ごろ）

社会科は従来の修身・公民・歴史をただ一括して社会科という名をつけたものではなく、当時の国民生活から見て、社会生活についての良識と性格とを養うことを目的として新たに設けられたものであった。一学習指導要領(試案)一般編昭和22年3月20日の要旨一

公開講演シリーズ「個を生かす指導」加藤幸次氏

も く じ

- ・あの頃…社会科誕生のころ 教育センター資料室から…1
- ・研究管見、研修員紹介……………2
- ・新設講座紹介…教育相談事例研修講座
図形処理研修講座……………3
- ・公開講演シリーズ ⑩「個を生かす指導」
上智大学教授 加藤幸次氏……4～5
- ・第4回夏季教育セミナーについて
日時・場所等について……………6
各プロジェクト研究発表の紹介……………7
- ・運営機構・刊行物の紹介……………8

第 51 号

平成3年7月10日

秋田県教育センター

秋田市仁井田緑町4番2号
☎ (0188) 32-3594

研究管見

所長 斎藤 實 則



当教育センターの事業は、研究研修と指導・援助からなる。

県教育委員会行政組織規則にも教育に関する専門的・技術的な事項の調査研究に関すること」と記されている。

このことは、教育センターの職員に、研究を行うことを義務づけていると考えられる。

しかし、最近、各教育センターでは、研修事業が大幅に増加したことなどあって、調査研究事業を推進することが難しくなっているという。残念に思う。

幕末の思想家であった佐藤一斎は、「少にして学べば、即ち壮にして為すことあり。壮にして学べば、即ち老いて衰えず。老いて学べば、

即ち死して朽ちず。」と述べている。

この言葉は、人間死にいたるまで学び続けることこそが生きることであり、いかなる人間も生涯懸命に学ばなければならぬと説いていると解釈される。

かかる観点からも、教育に携わる教師は勿論のこと、現場の教師を指導する立場にある指導主事の場合、殊更、厳しく自ら学び、研究する姿勢が必要であろう。

それでは、研究にはどのような意味があるだろうか。

因みに、広辞苑には、「研」・「研ぐ」について『①玉・金属などをみがいて光沢を出す。②刃物を砥石にすって鋭くする。③水中ですって洗う。④心を錬磨して立派にする。』とあり、「研」・「究める」は『①極限に達せさせる。②終らす。③残ることなく尽くす。④定める。』とある。

上記の内容からも、研究することの厳しさが推察される。そして、その具体化は、「テーマの設定」から始まる。テーマの設定

には、研究者の力量とセンスが問われ、その内容は新鮮味・発展性・応用性のあるものを選ばなければならない。

「研究材料・研究方法」も十分に吟味する必要がある。それは、①材料はありふれたものでも、研究方法が新しい。②研究方法は古いが、材料が異なる。③材料・方法とも新しいが理論に新味がある。のいずれかでなければならない。

そして、データから事実・現象を見つけ出し、考察から結論までの論旨は、幾何の証明のように論理的であることが基本である。

しかし、それだけで優れた研究になるとは限らない。

かつて、水河地形の研究で高名であったI氏が、東京都世田谷地区の医師の評価について発表されたことがある。それは自分の娘を医師の誤診によって喪ったことに対する怨念からであったともいわれている。

このような研究は、いかに材料・方法・考察が科学的であったとしても、優れた研究とはいえないのである。

研究は、己の心を錬磨しながら厳しく行われるものであるが、その底には暖かい心・ヒューマニティーがなければならないと思う。

研修員紹介

3・4・114・3・31

工藤 克也(能代五小)道徳

高橋 真也(坊中小)学級経営

小原 靖(藤木小)図工・美術

牧野 洋悦(湊城一小)生活

阿部 潤(花輪北小)情報処理

高橋 均(沼館小)情報処理

竹屋 敬一(大曲高)情報処理

藤田 雅子(秋田工高)情報処理

加藤 順子(八郎潟小)幼児教育

澤田 昌子(日影小)特殊教育

木村 庵(五城目小)特殊教育

鈴木 徹(稲川養護)特殊教育

五十嵐 馨(湊城三小)生徒指導

高橋 忠作(大正寺小)生徒指導

貴志 修一(城東中)生徒指導

3・5・113・7・31

高橋 正彦(大曲中)学級経営

川辺 斉(城南中)特別活動

三浦 文雄(中仙中)理科

小林 寿(比内中)国語

大友 稔(大内中)情報処理

山中 信夫(増田中)生徒指導

3・5・113・9・30

熊谷 均(勝平養護)特殊教育

3・9・113・11・30

山岡 満(森吉中)道徳

米持 隆司(平沢中)生活

菊地 則夫(羽後町田代中)数学

高瀬 聡(大森中)英語

橋本 千東(西明寺中)情報処理

島山 勇市(男鹿中)生徒指導

3・9・114・1・31

新井 敏彦(比内養護)特殊教育

新設講座の紹介

☆時代の要請にこたえて、幾つかの講座を新設した。ここで☆
☆はそのなかから教育相談事例研究研修講座、図形処理研修☆
☆講座の二つを紹介する。

登校拒否のすべてを研修する

教育相談事例研究研修講座

新設のねらい

現在、生徒指導における重要課題は『登校拒否』『いじめ』『中途退学』に関する適切な対策・対応を早急に図ることであるといわれています。

特に『登校拒否』は本県においても増加し続ける一方で、登校できない子供たちが苦しみ悩んでいることはもちろんのこと、保護者も教師も関係者はみなその対応に苦慮しています。

こういう現状を踏まえ『登校拒否』に関して集中的・総合的に研修し、適切な対応を図っていくため本講座を新設しました。

開催要項、内容は次のとおりです。

- 一 期日 平成三年九月十八・九日 十一月十八日
- 二 対象 小・中・高・特殊教育学校の教職員
- 三 講座内容

- (1) 登校拒否の理解
事例を通して登校拒否の意味を考える
- (2) 登校拒否の起こりと背景



講座風景

- (3) 登校拒否改善の過程
時期や状態とその対応
- ① 落ち込みの時期
- ② 動けなくなる時期
- ③ 力をためる時期
- ④ 動き始める時期
- ⑤ 登校に挑戦する時期
- ⑥ 登校し続ける
- (4) 関係機関との連携・協力
- (5) 登校拒否の指導計画
- (6) 登校拒否関係理論とその応用事例研究
- (7) 事例研究

あなたにもできるパソコンデザイン

図形処理研修講座

近年、情報化の進展にとまぬ、情報処理能力の育成が教育の場にも求められてきました。

児童生徒の心身の発達段階に応じた情報活用能力を育成するとともに、個に応じた学習指導を図るなど、多様な学習活動の展開が望まれています。



図形処理による作品
当教育センターでは情報処理教育の充実を図るため、

研修講座の内容を見直し、学習指導の改善に資するための講座や、学校における校務運営の能率化を推進するための校務処理に関する講座を新設しました。

その新設の研修講座のなかの一つ「図形処理研修講座」を紹介します。

一、新設のねらい
図形情報の作成と取扱方法を習得し、学習指導における表現力向上に資する。

二、期日
平成三年十一月七日(木)～八日(金)

三、対象
教職員(パソコンの初心者でも受講できます。)

四、講座内容

- (1) パソコンの機能と構成
- (2) 文字の入力と日本語変換
- (3) 文章の作成と編集
- (4) 図形処理ソフトの活用
- (5) マウスの扱い方
- (6) 図形データの入力と編集
- (7) イメージスキャナによる図形のコピーとパソコンへの転送技術
- (8) XYプロッタによる図形のカラ印刷
- (9) アニメーション表現技法と作成
- (10) 図形教材の作成
- (11) 学校での図形データの活用

五、活用

小学校・中学校においてはいろいろな図形や色彩に関する表現はもちろんのこと、高等学校においても特に家庭科など、一般に図形作成や図形処理及びデザイン・配色・インテリアなどを扱う教科科目の領域での活用にきわめて有効です。教師の学習指導の能率化を助けるとともに、児童生徒の興味・関心を高めるので、分かりやすい指導の手立てになると考えます。

※二つの講座とも自主的に受講できる講座で、これからも申し込みができます。詳しくは教育センター研修講座案内を参照ください。



☞ 個性重視の原則が新学習指導要領で強く打ち出されていることは、周知のとおりである。ここでは、「個に応じた指導、個を生かす指導」の研究で知られている加藤幸次氏のお話を紹介する。なお、本文は研修講座の一環として行われた講演を要約し、氏の点検を経て掲載するものである。

個別化を考える原体験 大学を出たの私は、中学校で英語を教えました。その時「あの子とあの子は英語のエの字も知らない、アルファベットも知らない、なに関係代名詞を教えずに『いやいや』と思っただけ、背筋が寒くなりこれは何とかしなくてはいけないと思いました。また、社会科の授業で調べ学習をやらせましたが、私の目の届くのはせいぜい十五六名程度、あとの四十名は自分勝手にやりました。このような状況が原体験となって個別化、個性化ということをやらずに考えておりました。個を生かすことの誤解 ある小学校に行った時、その教頭先生が「子供は皆違うのに、個性を生かすなんて出来っこない」と言いました。また、ある先生は「これ以上個性を生かしたらクラスがやかましくなってコントロールできない」というので、個性を生かすということがイメー

ジとしてしっかりしていない証拠だと思います。個別化の概念 新学習指導要領には基礎基本の重視と個性を生かす教育を行うとあります。しかしこの「生かす」という表現では指導の個別化にかたよります。つまり様々の個性の子供がいてそれらの特徴を生かしながら、ある目標を達成するという意味になります。個性は、目標ではなくて、手段になっているわけです。私は、これを個性の手段概念と名付けています。数学(算数も)や英語、そして国語の一部を用具系教科と呼んだ時がありました。その是非はともかくとしてこれらの教科は系統性がきちんとなくて、ステップを踏んでいかないと次に進んでいけないわけです。そのステップを全ての子供にきちんと踏ませる手段に個性を生かそうとするわけです。これは指導以前にバラバラだった子供たちを指導以後に

ある一定の水準に到達させるもので、図1上のようになります。そしてその具体的実践過程やモデルなど図2、3に示しておきます。

しかし、図3は能力別学級編制につながる傾向があり、中学校段階までは実施しない方がいいと思います。新学習指導要領では、選択教科の履修幅が広がっていますので、選択の時間である図3のタイプが現れる場合もあるでしょうが、必修教科では、危険です。

できるできないは時間の差だけ 一九六三年にジョン・キャロルという人が「できないは時間の関数だ」として、「時間をかければできない子はいない。できない子というのは、ただ多くの時間が必要なだけだ」というきわめて革命的なことを言ったわけです。

現在学習指導要領では時間の枠がきちんと決まっています。

しかし、指導の個別化ということを考える際、この時間の要素をどのようにかえていくかは非常に重要な問題となります。指導に当たって時間配分については十分考えなければならぬ問題を含んでいるのです。

一方では、入試の問題も含んでいますし、達成目標も設定していることです。にもかかわらず、この時々の問題をめぐって今我々に様々な意味で意識の変化を求めていることは確かです。

無学年制の意味するもの 図の4を

ご覧ください。ジョン・キャロルの考え方を具体化していくとどうしてもこのようなモデルの指導過程になってしまいます。このうち3のBのタイプが無学年制を示しています。私がアメリカからストレートに持ち込んだ唯一の考え方は、

私が勤めていたアメリカの小学校では英語(国語)と数学だけは無学年制で指導していました。これは勿論一人の教師だけでできるものではなく体制としてでき上がっておりました。具体的には、小学校高学年の算数で分数の指導をします。私は通分を担当しておりました。私のところへくるのは通分をマスターするための子供で下は3年生から上は6年生まで様々でした。そしてここをマスターすると次の段階に送ることになっていました。何も難しいことはないわけです。現在の塾はみなこのモデルを踏襲しています。いづれにせよ、落ちこぼれは学年制を布くから生じることなのです。英語には、slow learnerという言葉はあっても落ちこぼれという言葉は存在しません。この無学年制のシステムは、我が国でも一部採用されて、ゆとりの時間等で採り入れられております。単元内進度別モデル さて、時間の要素を考慮して、無学年制とは異なる形態を取るのが3のAです。これは入る時もある時も一緒にして、しかし、その中では進度を個々に自由に選んでいきたいと思います。

個別化・個性化のためのモデル

モデル	サブ・モデル	指導・学習のパターン	
指導の個別化	1. 一斉指導補足モデル	A 一斉授業補足モデル B マスター・ラーニング・モデル(完全習得学習)	
	2. 順選別グループモデル	A 学力別グループモデル(到達度別学習) B 学力+αグループモデル	
	3. 学習ペースモデル	A 単元内進度別モデル(自由進度学習) B 無学年制モデル(無学年制学習)	
	4. 学習スタイルモデル	A 学習の仕方モデル(適性適度学習) B 認知スタイルモデル	
	学習の個性化	5. 学習課題選択モデル	A 部分選択モデル(発展課題学習) B 全体選択モデル(課題選択学習)
		6. 学習課題設定モデル	A 単元テーマ設定モデル(課題設定学習) B 契約学習モデル

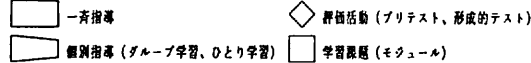


図 2 図 3 図 4 図 5 図 6

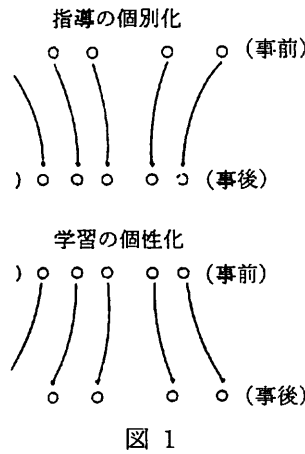


図 1

いわゆる単元内自由進度というスタイルです。これは我が国でもかなり普及しています。これが成立する必要条件として、工夫・精選された教材を理解することが必要であり、私たちもこのことのために十年来全力を尽くしてきたところです。先生たちも学習課題、学習シート等で随分と難儀されておられることと思います。

子供と教材との適性の問題 子供には様々の特徴があります。言語的認識には弱いのが、映像には強いという子供、集団の中で自分の考えを深めていく子供、一人学びが得意な子供、グループ学習が好きな子供、嫌いな子供等様々です。この子供と教材の問題について言及したのが、リー・クロンバックという人でした。

あるコンピュータの指定校になった学校の研究主任が言っておりまして、数学で5を取るような子供は余りコンピュータは好きではないのだそうです。問題集を見れば分かることをコンピュータでまわりくどくやるというのです。逆に数学が1の子供には、コンピュータを授業に導入することで3に上昇する子供もいるということでした。

この一つの事例は我々が与える教材教具が子供一人一人にみな異なる意味をもっていて、余程適性を考えて与えないといけないということをしてサジェッションしています。しかし子供がどんな教材教具に適性を持っているかを知ることは未開拓の分野です。現在は関連するあらゆる教材教具をオープンスペースにバラバラに置いて子供たちが各自めいめいに使うようにすることで精一杯です。クロンバックは更に次のようなことを言っています。それが4のBで一人一人の子供には、認知スタイル、思考のスタイルがあるということを言いたわけです。考えを運んでいくのにそれぞれスタイルがあり、それを処遇できれば、最高だと言ったわけですから。この子供たちの思考のパターンに合わせて指導するということが夢のような話です。

私たちが個性を生かすといういわば個性を手段概念として考えるとき原則として、それは大体系統性の強い教科に適用しようとする傾向があります。この時、先述のような三つの個人差を考え、そしてこれを処遇しようという手法を考えます。

ところで、「個性を育てる」と言ったとき、これは個性そのものが目的であって、それ以外に目的はありません。これを私は個性の目的概念と呼んでいます。逆に言うと先程私と申したのは、この最終の到達点は

習熟度別学習だけに進んでいく可能性があるからです。にもかかわらず、私たちはこの概念は持っているべきだと思えます。学習指導要領もそのように動いているように思います。

それと並行して国語の一部、社会理科等の内容系教科は「個を育てる」という面を重視すべきだと思います。図6にあるモデル6のB、子供たちの興味関心に即して一つの課題だけで学習を進めていくというモデル。これが入試に弱いというのであれば、6のAのモデル、これは最低限必要なものを共通に学習し、あとは興味関心に任せて自分の好きどころから入るといったタイプです。

まとめ 「個を育てる」ということは自分の得意な分野領域を育てることです。そのためには、課題を選択し、自分の生きていく道を探っていくことが大切です。また、得意な追求の仕方、内容系の教科でこそこれらは可能なのだと思えます。

最後になりましたが、指導の個別化、学習の個性化は明確に分けたいと思えます。これは図1に明示していますが、用具系教科では、指導の個別化でもって基礎基本の定着に意を注ぐべきであり、内容系教科では学習の個性化で自学の力をつけるべきであり、これがそれぞれの教科の基礎基本と考えるべきでしょう。

(文責 秋田県教育センター)

第4回 夏季教育セミナー

テーマ 「これからの学校教育を考える」

と き 8月19日(月)
と ころ 秋田市文化会館

主催 秋田県教育センター

本県教育のかかえている課題の解決にむけた
当教育センターの研究を公開し、それを基調に広く意見を
求め、本県学校教育の活性化を目的とする。

シンポジウム

テーマ

これからの秋田県の学校教育を考える —— 社会の変化と学校教育 ——

パネリスト

- 淡 路 龍 (飯田川町長)
- 恵 美 三紀子 (秋田県点字図書館館長補佐)
- 高 橋 武 三 (大曲市教育長)
- 渡 部 誠一郎 (秋田魁新報社論説委員長) (50音順)

コーディネーター

持 田 行 雄 (秋田大学教育学部教授)

課題別協議会

- 第1分科会 「学力を高める教科指導の在り方」
- 第2分科会 「個を生かす教育指導の在り方」
- 第3分科会 「地域教育力を生かした特色ある学校づくりの在り方」

日程・内容

10:00 10:20 10:30			12:20 13:20		15:20 15:30	
受	開	移	昼			閉
付	会		食	シンポジウム		会
式	式	動				式
				課題別協議会		

学力を高める教科指導の在り方

第Iプロジェクト

一 研究のねらい

学力の向上を一層図っていくことが本県学校教育の重要な課題になっている。特に、小・中・高が一貫性をもってそれぞれの発達段階に応じた基礎学力の定着を図るために、教科等の指導や指導体制の在り方を更に充実させることが要請されている。

この状況をふまえ学力向上のための理論的、実践的研究を通して研究主題についての具体的な提言をすることをねらいとするものである。

二 研究の内容

基礎研究として次項について調査・研究をする。

1 学力向上の理論的研究

- ア 各教科における「基礎的・基本的学力」の解明
- イ 「学力向上」と「個を生かす教育」との関連
- ウ 「学力向上」と「自己教育力」との関連

2 調査・研究

- ア 学力の実態についての考察
- イ 学校の指導体制についての調査・研究（校種別）

3 実践研究

- ア 基礎研究に基づいた学力向上の方策についての研究仮説の設定と実践研究内容の策定
- イ 共同研究実践校の委嘱と実践研究の推進

プロジェクト研究発表の内容

三 夏季教育セミナーの発表の概要、学力向上の理論的研究及び学力の実態・指導体制等の調査結果の概要と問題点を発表し、参加者の意見を拝聴する。

個を生かす教育指導の在り方

第IIプロジェクト

一 研究のねらい

二十一世紀に向け、創造的に活力ある社会を築くことに資する人間の育成を目指し、「個を生かす教育指導」の具体化を図るために、目標、内容、環境等について検討し個性重視の教育推進のための課題と方向を明らかにしようとするものである。

二 今年度の研究の概要は次のとおりである。

- 1 「個を生かす教育指導の在り方」の意識に関する調査研究
- 2 「個を生かす教育指導の在り方」に関する実践的研究
- 3 夏季教育セミナーの発表について

「個を生かす教育指導の在り方」に関する意識調査の結果を次の項目に従って報告する。

1 調査対象

平成二年度の研究協力校、小学校、中学校、高等学校各三校の児童生徒および教員

2 調査内容

- (1) 教科 個を生かす教科指導の在り方
 - (2) 教科外 認めあい助けあえる学級環境
 - (3) 環境 個を生かす場
- 以上の三分野について
- ア 指導の『ねらい』
 - イ 児童生徒の『理解』
 - ウ 個を生かす『指導・実践』

の在り方に関し、調査した結果から、「個を生かす教育指導の在り方」はどうあればいいかを分析究明する。

地域教育力を生かした特色ある学校づくりの在り方

第IIIプロジェクト

一 研究のねらい

地域の教育力が低下しているという指摘とともに、「開かれた学校」の必要性が叫ばれている。これは、学校の画一性、閉鎖性を排除し、活性化を強く求めているものである。これにこたえるには、地域の教育力を積極的に活用した特色ある学校づくりを進める必要がある。

そこで、本プロジェクトでは、地域の教育力を開発、活用するための実践的研究に取り組み、その在り方について具体的に提言することをねらいとしている。

二 研究の内容

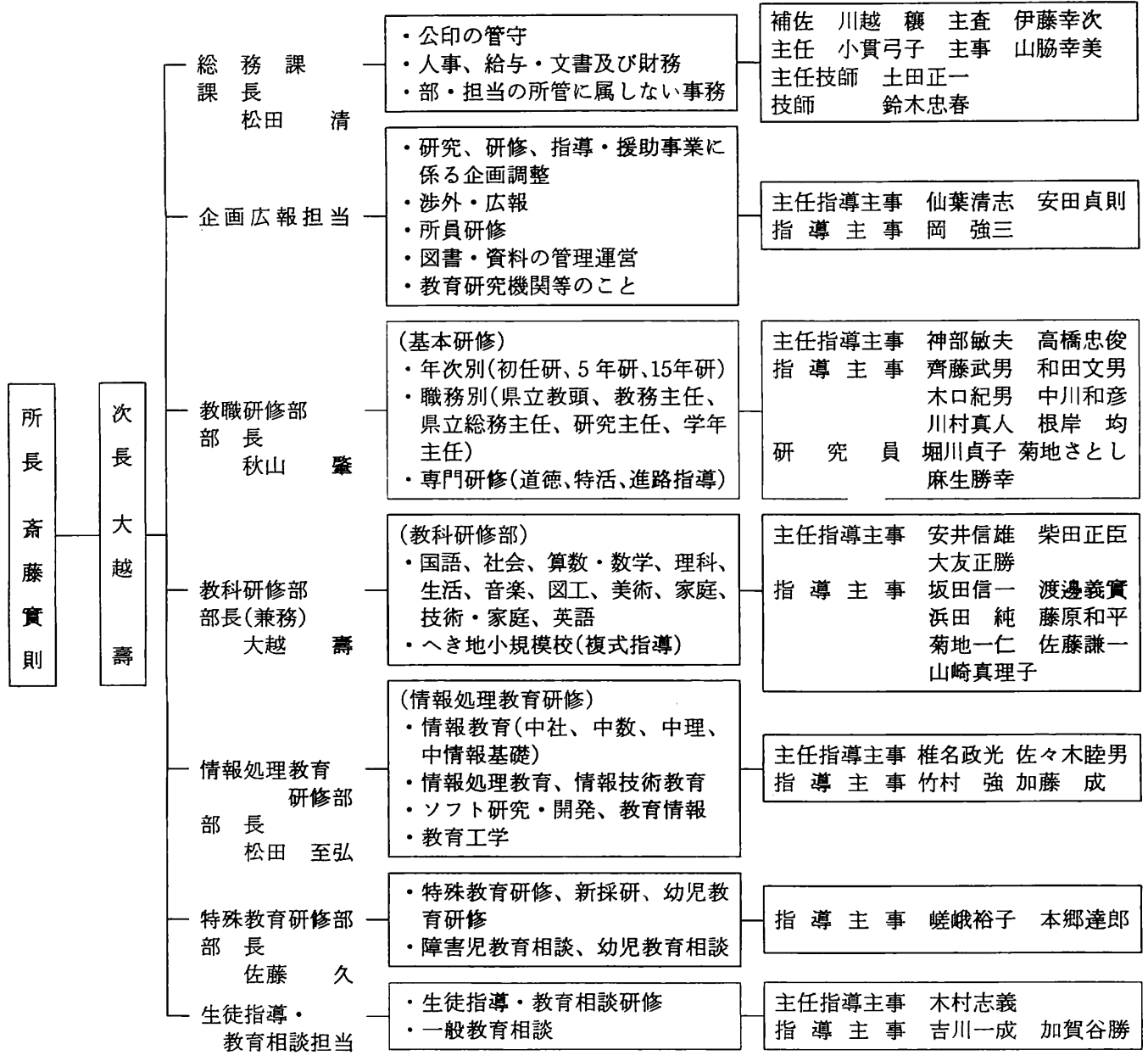
- 1 地域の教育力開発の視点を明らかにする。地域は多くの教育力を持っている。ただ、それが開発され、活用されているかどうか問題なのである。そこで地域の教育力を開発するための視点を追究し、明らかにする。
- 2 地域の教育力の開発、活用を実践的に追究する。

共同研究実践校を委嘱し、視点に沿った地域の教育力の開発と活用に共同で取り組み、その在り方を具体的な事例を通して追究する。

三 夏季教育セミナー発表の概要

地域の教育力を開発する視点とそれに沿った開発例を具体的に提示し、参加者の意見を拝聴する。

運 営 機 構



平成二年度 刊 行 物 の 紹 介

生活科実践資料集
— 地域の特色を生かして —



◆ 指導の手がかりをつかみにくい子供への指導事例集

◆ 国際理解を深める学校教育の在り方

◆ 毎日の生活に生かす学校教育相談

◆ 秋田県郷土教育資料(中・高向け)

— 秋田の文学 —

◆ 教育研究資料件名目録

◆ 教育研究資料(第一集、第二十三集)

◆ 研究紀要(第一集、第二十二集)

◆ 研修レポート集

◆ 三ヶ月研修員の調査研究報告